

町長発!

“がんばる” トーク

町長 上川元張



10月17日から3泊4日で台湾を訪問しました。台湾新竹県の内湾駅と若桜駅は令和2年1月に、また駅の所在する新竹県横山郷と若桜町は令和3年12月に、それぞれ交流協定を結びましたが、コロナの影響で往来ができず、今回初めて横山郷を訪問して、今後の交流について意見を交わしたものです。商工観光や鉄道の関係者など、総勢9名の訪問団です。

交流式典の会場となった横山郷の役場ホールには、張志弘郷長、張良印県議会議員を始め、郷民代表会各代表や各村長など約45名の郷民が参加されました。レセプションでは横山郷文化芸術推進協会の12名の女性による華やかな舞踏が披露され、歓迎を込めた生き生きと息の合った演舞に心動かされました。全員が70〜80代で、毎朝公園でやっている健康体操がベースだと後で聞いて驚きました。意見交換では、台湾の方々があこがれる「雪」をテーマとした交流、そしてまずは子ども同士との交流から始めることで意見の一致を見ました。現地の新聞社やテレビ局も複数取材に来ており、関心の高さが伺えました。

式典の後、旧映画館のホールで行われた懇親会では、あちこちの円卓で台湾式の乾杯が繰り広げられ、会

場全体が熱烈な歓迎ムードに包まれました。懇親会後は、張郷長のご案内で目抜き通りの内湾老街を散策。内湾駅構内や廣濟宮寺院を見学しました。途中の内湾国民学校では、若桜学園の樹水太鼓に負けず劣らぬ勇壮な太鼓を6年生が披露してくれました。

台北市では、台湾の国鉄に相当する鐵路管理局を訪問しました。陳裕謀主任秘書を始め幹部職員同席の中、台湾の鉄道事情や、若桜鉄道はじめ日本の地方鉄道の現状などを情報交換しました。内湾駅を含む内湾線は、もともと日本統治時代に檜材搬出のために日本政府により敷設され、その後鉱物資源等の貨物輸送を担うなど、百年を超える歴史があることがわかりました。今回の訪問では、両駅の親善を願うポスターを作成し、内湾駅や鐵路管理局への掲載を依頼しました。今後両駅間の具体的な交流を検討していきたいと思います。

台湾は、昔から変わらぬ親日国であり、経済や文化など様々な面で日本との結び付きが強い国です。同時に、経済発展が目覚ましく、1人当たりのGDPは日本と肩を並べる豊かでエネルギーシユな国です。今後、交流の輪を広げ、草の根交流につなげたいと思います。